

日本学術会議主催学術フォーラム



「東日本大震災がもたらした食料問題を考える」


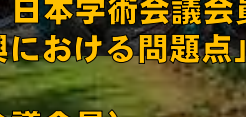


日時:平成24年11月21日(水) 13:20~17:30

場所:日本学術会議講堂 定員:先着 300名

開催趣旨

平成23年3月11日に東北太平洋沖で発生した大地震は巨大津波の襲来をもたらし、沿岸地域の農林水産業を一瞬のうちに破壊した。さらに、巨大津波の直撃を受けて漏洩した東京電力福島第一原子力発電所の放射能は、農林水産業に対して広域にわたって長期的に多大な影響をもたらすことが危惧されている。このような背景の下、農林水産業においては安全な食料の早急な供給回復が求められている。さらに、長期的な視野に立つ食料の安全対策も重要な課題となっている。そこで、食料科学の立場から現状を分かりやすく説明するシンポジウムを開催する。

次第

- 13:20 開会の挨拶
- 13:30 濑澤 栄 (東京農工大学大学院農学研究院教授、日本学術会議連携会員)
「農地の放射能汚染の実態と除染の試み」
- 14:05 藤原 徹 (東京大学大学院農学生命科学研究科教授)
「作物の放射能汚染とその対策」
- 14:40 渡部終五 (北里大学海洋生命科学部教授、日本学術会議会員)
「水産物のサプライチェーンの復旧・復興における問題点」
- 15:15 休憩
- 15:30 山下俊一 (福島県立医科大学、日本学術会議会員)
「内部被ばくによる健康リスク;チェルノブイリの経験から福島の現状を考える」
- 16:05 中嶋康博 (東京大学大学院農学生命科学研究科教授、日本学術会議連携会員)
「食品中の放射性物質に対する消費者意識とリスクコミュニケーション」
- 16:50 総合討論 (質疑)
- 17:20 閉会の挨拶

コーディネーター

清水 誠 (東京大学大学院農学生命科学研究科教授、日本学術会議会員、食料科学委員会副委員長)
大下誠一 (東京大学大学院農学生命科学研究科教授、日本学術会議連携会員)

共催:東日本大震災に係る食料問題分科会、日本学術会議・水産学分科会、
農業経済学分科会、農業情報システム分科会、農芸化学分科会
後援:日本農学アカデミー、日本水産学会、日本農業経済学会、日本農芸化学会、
日本水産学会、日本農業機械学会、東京大学農学生命科学研究科アグリコクーン

日本学術会議案内図



申込先:日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当
〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34

TEL:03-3403-6295 FAX:03-3403-1260

申込みフォーム: (<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0003.html>)